

令和3年度 第1回
新宿区景観計画検討小委員会議事録

令和3年4月13日

新宿区都市計画部景観・まちづくり課

令和3年度第1回新宿区景観計画検討小委員会

開催年月日・令和3年4月13日

出席した委員

中島直人、篠沢健太、坂井文、伊藤香織

議事日程

議題1. 新宿区景観まちづくり計画・新宿区景観形成ガイドライン改定方針について

議題2. 新宿区景観まちづくり計画等改定ワーキンググループ（案）について

議題3. その他

議事のでんまつ

午前9時30分開会

○事務局（景観・まちづくり課） それでは、皆様おそろいになりましたので、早速でございますけれども、本年度最初の小委員会を開催させていただければと思います。よろしくお願いいたします。

開会に先立ちまして、今年度から八千代エンジニアリングさんが、この計画改定の支援をしていただくことになりましたので、ご紹介いたします。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） 八千代エンジニアリングと申します。よろしくお願いいたします。

○事務局（景観・まちづくり課） 委員の皆様、本年度引き続き新宿区も、先生たちの力を借りながら景観計画の改定に向けて頑張っていきたいと思っております。改めてよろしくお願いいたします。

本日、議事録を作成していただくために、会議録研究所さんにお入りいただいておりますので、例によって発言される前にはお名前を申し出てくださいか、もしくは画面上で手を振っていただくなど、発言の分かる形をお願いできればと思います。

それでは、本日ですけれども、事前に次第をお送りしておき、報告事項、議題といったしまして、景観まちづくり計画と景観形成ガイドライン改定方針についてというものがまず1点ございます。昨年度最後、改定の方針（案）を先生方のお力を借りてつくることができま

したので、それを3月の景観まちづくり審議会、親会に報告をさせていただきました。

続いて2点目といたしましては、景観改定のワーキンググループ（案）について、本年度、夏ぐらいに現地調査を行う予定になってございますけれども、いよいよその実施に向けた仕組みづくりを具体化していくというところでございます。

3つ目のその他については、主にスケジュールをお話しさせていただければと思っております。

以上の流れで本日進めさせていただければと思います。

では、全体の進行のほうは、ここからは**中島先生**にお願いしたいと思っております。よろしくお願ひします。

○中島委員長 分かりました。では、今ご説明いただいたとおり、議題は2つでございますので、順番にいきたいと思っております。

議題1. 新宿区景観まちづくり計画・新宿区景観形成ガイドライン改定方針について

○中島委員長 では、もう早速ですけれども、1個目のガイドライン改定方針についてということで、こちらは事務局のほうから資料の説明を行っていただけるということでしょうか。

○事務局（景観・まちづくり課） 事務局の富松から説明させていただきます。

前回の審議会で皆様から頂いた意見に基づいて、改定方針のほうを修正させていただきましたので、修正箇所をご説明させていただきます。

まず、ページ1の改定のポイントの（1）番の3つ目のポチです。こちら、**中島先生**のご意見をそのまま書かせていただいております、「以上を踏まえつつ、新たな生活様式などの社会情勢の変化に合わせて、景観まちづくりと生活環境、生活の質との関係、取り組むべきテーマについて、検討する必要がある。」という文言に修正させていただきます。

修正のもう1か所が、5ページ目の夜間の景観形成のところでは、

「小委員会から出された意見」の3つ目のポチで「路面の「安全」を確保する照明とは別に、住宅街などでは、「安心感」を与える照明も重要である。」ということで記載を修正させていただきます。こちらは**伊藤先生**から頂いた文言を、そのまま使わせていただいております。

方針の修正に関する説明は以上となっております。

○中島委員長 ありがとうございます。

前回、紙面協議でしたけれども、幾つか出た意見を基に、今のような改定方針の修正を行ったということで報告事項ということでございますが、何かご意見等ございましたらよろしくお

願いたします。

いかがでしょうか。特に問題ないでしょうか。

坂井先生、お願いします。

○坂井委員 坂井です。

事務局に確認ですけれども、景観まちづくり審議会で、もう少し書き込めるとよいと思うとかという、そういったご意見もありましたが、このようなご意見に対してどのように対応されるでしょうか。

○事務局（景観・まちづくり課） ご意見につきましては、基本的にはこの小委員会の場で各先生方に意見を紹介させていただいて、改定の計画の作業の中でご意見を反映するとお答えしています。質問事項等については、こちらのほうからお一人お一人にお答えしているといった状況です。

○坂井委員 そうしますと、意見については、この小委員会のほうで議論を続けていくという理解でよろしいですか。

○事務局（景観・まちづくり課） はい、結構です。ここでのご意見を踏まえて、今後の改定の作業の中で反映していく、あるいはご意見として承っておくといった判断をしながら今後進めていければと思っております。

○坂井委員 分かりました。そうしましたら、資料1のこの項目にはこういう意見みたいな、何か整理したものが今後出てくるのでしょうか。

○事務局（景観・まちづくり課） そうですね。ガイドラインと別に、計画のたたき台というのを目下作業してございますので、今頂いているような意見があるから、こういった表現にしていきたいということで、皆様方にたたき台として示しながら、ご説明できればと思っております。

○坂井委員 分かりました。今後出てくるということで承知いたしました。ありがとうございます。

○中島委員長 ありがとうございます。

基本的な理解としては、たくさんの意見は出ているんですけれども、その改定の方針が全く間違えているとか、90度違うみたいな意見ではなくて、どちらかという、この方向だったらこういうところまで考えてほしいとか、そういうことだったので、それは具体的な改定の中で議論をして反映させればよくて、方針としては、特に否定というか、修正する必要はないという、そういうご理解でよろしいでしょうか。

○事務局（景観・まちづくり課） 今、中島先生がおっしゃっていただいたとおり、改定の方向性については否定のご意見や、真逆のご意見は一切ございませんでした。今頂いている意見についても、もっとこうしたほうがいいとか、こういった視点も加えたらいい、あるいはワーキングの調査に参加してみたい、そういった積極的なご意見を頂いているというような状況でございます。

○中島委員長 分かりました。少し補足的な話でした。

ほかの先生方は大丈夫でしょうか。

では、方針としては、これによろしいと思いますので、この改定方針に沿って今年度進めたいと思います。それでは、2番目の議題に移りたいと思います。

議題2. 新宿区景観まちづくり計画等改定ワーキンググループ（案）について

○中島委員長 2番目の議題は、ワーキンググループの案についてということでございますので、こちら事務局のほうから資料の説明をしていただくということですね。

○事務局（景観・まちづくり課） こちらのワーキンググループ（案）の資料につきましては、八千代エンジニアリングさんからご説明いただくことになってございます。

では八千代エンジニアリングさん、よろしく申し上げます。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） 私、篠崎のほうからご説明させていただきます。

こちらの資料になりますが、今回ワーキンググループ（案）ということで、これまで小委員会のほうでもご議論いただきましたように、景観まちづくりのインカレのワークショップのような形で今私ども、企画のほうを練っているところでございます。そのたたき台を今日はご報告させていただきます、今後の企画を練っていく上で貴重なご意見を頂ければと思っております。

1ページの目次をお願いします。

大きくは3つでございます。1つが体制と役割分担ということ、2つ目がチーム編成について、3つ目が進め方と確認事項ということで5点ほど挙げております。

では、順に2ページ目のほうからご説明します。

まず検討の体制と役割分担（案）ということで、こちらの図のほうは、改定方針の末尾のほうでも出ております進め方を少し改良させていただきました。基本的な考え方としては、改定方針に倣っておりますけれども、上の枠の中でありますように、ワーキンググループとしては

エリア別景観形成ガイドラインの改定の一部をご担当いただくということで、大学生、大学院生で編成されたチームがエリアを分担して現地調査を行い、見直し案を作成いただくというような形で考えています。

下の図の青点線で囲っている部分がワーキンググループの全体像になっておりまして、右側の新宿区さんと我々コンサル、それとチームとのやり取り、さらには、左側のほうに小委員会の先生方ともやり取りさせていただきながら、ワーキンググループ運営をしていきたいと考えております。

また、右上の区民委員の方についても、ご意見を頂く、もしくはフィールドワークにご参加いただくような機会を設けたいと考えております。

体制としては、主に我々コンサルとチームとのやり取りで進めていく部分も多いかと思いますが、途中、報告、説明の機会を小委員会のほうにも設けていきたいと考えております。

3ページはチーム編成になりますけれども、図の左側に研究室の連合チームということで、各研究室からの希望者の方々にチームをつくっていただいて、我々コンサルの担当とやり取りしながら進めていくような形、もしくは、同じ研究室の中でチームをつくっていただくというのものもあるのかなということで、そのバリエーションも右のほうに示しております。ボリューム感としては、下の青枠の中の1つの地区ということで、新宿区内を10地区に分けておりますが、その中でエリアを区分したときに、1つの地区に大体2から4エリア、検討対象がございますので、そちらを1チームで担当していただくようなイメージを持っています。ただ、エリアが多い地区もございますので、そこについては人数に応じてエリアを区分するなど考えていくことを今後やっていくということでございます。

4ページに進め方（案）と確認事項ということで、表形式になりますが、段階的に一連で整理させていただきました。今、事前準備のところをやっております。実施項目のところでも事前調整、さらに対象エリアを設定して、実施要領の作成ということで、アウトプットや進め方を少し細かく説明するものを作っていきたいと思っています。その上で全体の説明会ということで、時期的には5月中旬から6月ぐらいになるかと思いますが、参加チームの方々へのご説明の機会を設けたいと思っています。そこからフィールドワークやガイドライン検討作業の準備に入っていくということで、実際の実施は、夏休みの期間と聞いておりますので8月中を予定しています。その上で、ガイドラインの検討案を作成していただきながら、中間の報告会、また最終の報告会ということで、区、もしくは小委員会のほうに検討状況をご提供いただいて意見交換する機会を設けていくのを8月中に行いたいと考えています。

最後、取りまとめということで、ガイドライン案のつくり込みについては、各チームからの成果を基に私どものほうで最終的な編集作業ということを経験していきたくて思っています。期間的にも、大体チームの作業を8月いっぱいぐらいで完了させていただくようなスケジュールを今組んでいまして、このあたりも参加団体、参加チームに応じて、詳細に詰めていく必要があると思っておりますが、今、たたき台としてご提示しております。

一番右の欄に確認事項、留意事項ということで挙げております。まず今の準備段階としては、①のとおり参加大学・参加者について確認させていただきたいと思っています。大学であるとか、その他のご参加いただける人数、チーム編成の仕方、どのぐらいの作業が可能なのか、あと、期間的にどのぐらいを受け持ってもらえるかといったところが主な項目でございます。

それが見えてきましたら、順次ワーキンググループの対象エリアでありますとか、検討の流れですとか、確認事項を詰めていきたくて思っておりますが、次のページから、その確認したい点について詳細に示しておりますので、5ページからまた説明を続けます。

まず参加団体の募集ということで、下のほうに挙げさせていただきました小委員会のご参加の皆様方の研究室、それと、芝浦工業大学の**佐藤先生**以下、前回のガイドブックを作られたときにワーキンググループに参加された方が教員となっていられる研究室、さらに、一番下に、新宿区に立地する区内の景観研究室ということで早稲田大学のほうを挙げております。こちらについても、ご意見を頂きたいと思っております。

6ページは、ワーキンググループの検討対象エリア（案）になります。

こちら、昨年の第1回小委員会でお出しした資料になっておりますが、図のほうでAとかBとか区分が付いております。私ども、イメージしているのは、左側の青枠囲みのAというエリア、19エリアございます。大規模開発とか都市計画事業があったエリアになります。こちらはチームと我々コンサルのほうで現場を見ながら改定作業を進めていきたくて思っています。

Bというエリア、23エリアございます。こちらは地区計画をはじめ、何かしらの改変があった地区ということで、数も多くなってございますけれども、こちらは現地の時点更新というのが主になるかと思いますが、チームを中心に作業を進めていただきたいと思います。

残りのCでございます。30エリアほどございます。こちらについては私どもコンサルでの改定作業を予定しております。

ご覧いただいても、地区ごとにAやBの数が、違ってまいりますので、受け持ってもらえるエリアに応じて、ちょっとチーム間で数の調整などをさせていただきたいと思っておりますが、今の想定はAとBというところをチームのほうで検討いただきたいと思います。

7ページになります。こちら、前回の策定時ということで、ガイドブックを作られたときのワーキングエリアの分担状況でございます。3つの研究室で3地区、4地区あたりを対象に受け持たれていたということで聞いておりますが、今回、一定のベースがございますので、今のガイドラインを見ながら、現地で新しい視点も入れていくというようなことが中心になっていくと思います。

8ページです。各チームによるガイドライン検討の流れになっております。

先ほどもご説明したかもしれませんが、事前準備ということで、今、区とコンサルのほうで進めております。チーム編成ですとかエリアの割り振り、実施要領ということでアウトプットイメージのご提示、また、ベースマップについても、私どものほうからチームのほうにご提供できるように、今準備を進めております。そして、6から7月になりますけれども、文献調査、調査の視点の確認、構成の論点、議論といったところをチームが主体となって見ていただくと考えております。8月に入りまして、フィールドワークをしながら、適宜また文献調査、調査にフィードバックしながら進めていく形になるかなと考えておりますが、最終的には8から9月の間に改定検討ということで、チームが主体となっていくように考えております。

下の青枠囲み、ちょっと細かくて恐縮なんですけれども、要点を申し上げますと、学生の方々にできるだけ意欲的に興味を持って取り組んでいただきたいと、この改定作業というか、景観まちづくりに意義を感じながらやっていただきたいと考えておりますので、学生間の意見交換という形の機会、もしくは出てきた新しいアイデアをガイドラインに可能な限り反映していくというところも取り入れていきたいと考えています。

9ページのほうをご覧くださいませでしょうか。

新しい視点のキーワードということで、単に今のガイドラインの文面を見直そうということではなくて、そちらにありますようなキーワード、こういった視点も事前提供させていただきながら、もっとこういう考え方を示していくべきじゃないのかというところをチームのほうから、学生さんのほうからもアイデアを頂きたいと考えています。具体的には、景観ガイドライン改定方針の方向性ということで、スカイライン、高さ等々をご議論いただいた部分、あと、近年のまちづくりの話題ということで、ウォークアブルでありますとか、居心地がよくなる空間、エリアマネジメント、官民連携といったところ、あと、社会情勢ということで、アフターコロナ、ウィズコロナといったところの、多くは公共空間の使い方になるかもしれませんが、そういった点、あとSDGs、ダイバーシティということで、こういう発想も取り入れながら、ガイドラインの改定のほうにできる限り反映していきたいと考えております。

10ページがエリアのページということで、ガイドラインの更新の具体的なイメージを、今のガイドラインのページをベースに示しております。コンサルとチームという仕分を便宜上させていただいていますけれども、例えば、この四谷の外濠エリアで見たときに、左側の地図、ここは私どもがベースマップを開発状況とかを模しながら更新したものを準備します。その上で、チームのほうでフィールドワーク、文献調査を踏まえて、そこにある軸線とか景観構成要素、こういったところの更新をお願いしたいと思っています。

中間にあります細長い写真の部分、ここについても、我々コンサルとチームのほうでフィールドワークで撮影した写真を差し替えを行います。

右側のページで、景観形成の方針の核となる部分でございますが、こちらについては、チームのほうで前回策定時からの町の変化、あと、先ほどの新しいまちづくりの視点に注目しながら、新しい課題、改善策の提案を頂きたいと思います。必要に応じて、概念図とかスケッチみたいなものが書かれた図版も適宜更新をしていきたいと思っています。

次の11ページが地区のページということで、エリアより大きな概念の地区になっておりますけれども、こちらについては、右側のページ、こちら、地区の概要ということで、地形やまちの記憶、水とみどりと、今、統一したこの3つの観点で各地区整理しておりますが、エリア調査の結果を踏まえて時点修正を行うようなレベル感での構成作業を考えています。

全般的に、チームの皆様の見解、工夫を出していただく部分もありますけれども、我々としても全体の調整を図りながら取りまとめのほうを進めていくということで、スケジュール的には8月いっぱいまでチーム作業を終えるというような、ちょっとタイトなものになりますけれども、今後、調整と企画のほうを練っていきたくと思っています。

以上です。

○中島委員長 ありがとうございます。

昨年度の検討より一歩進めていただきまして、具体的な内容が見えてきたと思うんですが、ぜひ皆様からご意見を頂きたいというふうに思います。どんなところからでも結構ですので、よろしく願いいたします。いかがでしょうか。

それでは、篠沢先生、お願いいたします。

○篠沢委員 篠沢です。

大分分かりやすくなって、参加も学生にいろいろとアドバイスしやすいかなと思うんですが、新しい視点、キーワードの9ページの社会情勢の中に、SDGs、持続可能性のところ追加でいいんですが、グリーンインフラストラクチャーというのを入れておいていただ

けるといいなと思いました。それは、10ページ、11ページの図を見ると、四谷の外濠エリアとか、地区のページの水とみどりを考えるときに、そこら辺のキーワードは多分学生たちも注目しているでしょうし、これからのまちづくりに入れるといいかなと思っていますので、できれば追加していただければと思います。

以上です。

○**中島委員長** ありがとうございます。では、ぜひ追加いたしましょう。よろしくお願ひします。

ほかはいかがでしょうか。

○**中島委員長** どうぞ、**篠沢先生**。

○**篠沢委員** 追加で、景観まちづくり審議会の副会長である工学院大学の**野澤先生**もぜひやりたいとおっしゃっていますので、入れておいていただけるといいかなと思います。

○**事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** 承知しました。ありがとうございます。

○**中島委員長** すみません。**野澤先生**は一番上の欄に入れてもいいということでしょうか。

○**篠沢委員** そうですね。お話は通してありますので、びっくりはされないと思います。

○**中島委員長** ということは、**後藤先生**もでしょうか。

○**篠沢委員** そうですね。

○**中島委員長** お声がけするのはいいですよ。たしか1個目のところの景観まちづくり審議会の関係の先生方には、やっぱりお声がけするのがいいのではないのでしょうか。多分**後藤先生**と**野澤先生**ですよ。そのお2人でしょうか。

○**事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** では、追加をさせていただきます。

○**中島委員長** ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

坂井先生、お願いいたします。

○**坂井委員** すみません。ちょっと意見がまとまっていないんですけども、私も最初に**篠沢先生**がご指摘いただいた9ページの新しい視点のところは、とてもいいと思います。特に、多分近年のまちづくりのエリアマネジメント、官民連携、ウィズコロナ、このあたりは空間として立ち上がってくるというよりは、その空間でどういうふうな活動がされているかみたいなお話になってくるかなと思っています、今も目の前にガイドラインがあるんですけども、これ、1回目だったということもあって、いわゆる物理的、環境的な把握ということに徹せられたものに、今回は改定を加えるということなので、そこでの活動をどのように行われているかとい

うのはとてもいいことだと思うんです。

ただ、一方で、どういうふうに入れていくのかなみたいになんかちょっと思ったりもしていて、これはゆくゆく学生にやってもらって、それからまとめのときの議論でもいいとは思っていたので、ちょっとどういうふうに言おうかなと思いつつながら時間がたってきたんですけども、そんなふうなことは、意見として残しておいていただいて、今後やりながら考えましょうということなのかなというふうには思っております。

すみません。以上です。

○**中島委員長** どうもありがとうございます。

確かに景観マネジメントという側面が、10年前には多分ほとんどなくて、基本的には空間特性だけを書いてあるという感じなんですね。確かにこの視点を、先ほど説明いただいた2枚の、あの見開きの中でどう入れるのかというところは、今後検討しないといけないんですけども、学生たちとみんなでぜひ何か入れる方策を考えたいですね。そこは、確かに大きく今までとちょっと違って来る。どうこの景観を育てていくのか、守っていくのかということも、各地区ごとに多分個性があるということだと思いますので、貴重なご意見ありがとうございます。

○**坂井委員** よろしくお願ひします。

○**事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** すみません、委員長、よろしいでしょうか。

○**中島委員長** はい、どうぞ。お願ひします。

○**事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** 八千代エンジニアリングの篠崎です。

確かに反映するところがどこかというのは、課題だと思っていまして、エリア別で取り切れない部分については、例えば要素別の公共空間、もしくは公共的と言うかもしれませんが、そういったところを取り入れるものは取り入れるように考えていきたいなとは今思っているところです。

○**中島委員長** ありがとうございます。

○**坂井委員** 今のアドバイスをいただいて、去年の議論の中でも、**篠沢先生**とかいろんな方がご指摘していただいたように、こうやってエリアごとに調査するんだけど、その要素が、必ず新しく本体のほうに加える公共空間とか夜間照明と、こちらにも入ってくるんだよねみたいな話をしながら我々は進めていったと思うんです。それなので、八千代エンジニアリングのほうから言っていたように、そのあたりをどんなふうに整理していくのかということも、何か交通整理をお願いすることになるのかなというふうに思いました。

以上です。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） 承知しました。ありがとうございます。

○中島委員長 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

○伊藤委員 伊藤です。よろしいでしょうか。

○中島委員長 伊藤先生、お願いします。

○伊藤委員 いろいろご検討いただいてありがとうございます。あと、学生が自主的にというか、景観まちづくりの意義を感じられるようにということで、そういったご配慮も大変ありがたいなと思っております。

8ページ目に流れが書いてあるんですが、6月から7月に文献調査、視点整理、方向性の議論等というところがあるんですけども、この辺ですごく基礎的なデータみたいなものを見るようなプロセスというのはあるんでしょうか。例えばGISに地形と緑地の分布等とか、そういうものが載っていてみたいなものを、学生が作業しても構わないと思うんですが、ベースマップを用意してくださるということなんですけれども、恐らくベースマップというのは、この最終的に掲載されるマップのイメージなのかなというふうに先ほど伺っていて思ったんですが、もしその辺のイメージがあれば、ちょっと教えていただきたいです。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） 八千代エンジニアリングの篠崎です。

おっしゃるとおり、ベースマップについてはガイドラインの中で書いております景観の保存図のような、これをベースとして考えておりました。文献調査については、ご提供できるのは、今の少なくともガイドラインの中で使っている各地区のみどりとか地形という情報、この図面関係などはご提供できるかなと思っておりますし、まず改変したところについても明確にお伝えできるかなと思っています。開発、地区計画、みどりとかです。そのほか、研究室のほうからのリクエストに応じて、私ども、オープンデータが中心になるとは思いますけれども、ご提供しながら、どちらが作業をするかというのは仕分しながらやっていきたいなと思っています。

○伊藤委員 分かりました。ありがとうございます。実際にフィールドワークする前に、一旦地域の構造みたいなものを頭に入れておくんだと思うので、いろんなデータがあるといいかなというふうに思いました。地区ごとによって違うかもしれないんですけども、それもご配慮いただいているということで、よろしく申し上げます。

○中島委員長 ありがとうございます。

今の伊藤先生のご意見に加えてというか、同じことなんですけれども、確かに地区の基本構造のデータというのと同時に、10年間の景観まちづくりのやっぱり成果が分かるというか、

あるいはそのレビューができるようなデータも欲しいですね。各地区ごとに、もちろん新築の建物とかのデータもそうですし、特に景観の協議をやったというか、要するに景観の規模によって決まっているんですよね。そういうもので、結局どんなふうな地区で景観の協議が行われて、どんなものができたかというのを、やっぱり学生のほうも確認できると、何か単純に、景観を読むというだけじゃなくて、この景観まちづくりというのがどういうガイドラインだとどんなふうなことが結局起きたのかということも検証できるので、何かその辺のデータも、ぜひフィールドワークのときにそれを確認していくのかもしれませんが、あると、より意義深いかなとちょっと思いました。ぜひそういう整理も、先ほど新築物件というか、開発物件についてのデータというのをおっしゃいましたけれども、ちょっとそこと景観まちづくりの話と、少し結び付けたようなデータも頂けるといいなと思います。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） 承知しました。データの提供を検討します。

○中島委員長 ほかはいかがでしょうか。

すみません。あと1点、前に、たしかチラシを作るかどうかという相談を頂いたときがあって、そのときは、身近な人たちだから、この資料を見せればいいんじゃないかと思ったんですが、やっぱり何か1枚もののチラシがあると説明はしやすいかなという気が改めてしてきましたが、委員の先生方いかがでしょうか。何かちょっと形式的な問題ですけれども。

○篠沢委員 篠沢です。あったほうがいいと思います。

○中島委員長 篠沢先生からの意見、あと皆さんのうなずきも見えていますので、何かぱつと学生に声をかけるための資料を、いきなりこの資料だと、ちょっと大変かなと思いますので、それはお願いできるでしょうか。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） 八千代エンジニアリングです。フライヤーのようなもので分かるものを1枚準備します。

○中島委員長 QRコードでも貼ってあれば、あと詳しいことはそちらで構いませんので、お願いいたします。

○篠沢委員 ちょっと感想めいたことでいいですか。篠沢です。

○中島委員長 はい。お願いいたします。

○篠沢委員 それぞれにフィールドワークをやるということは非常にいいんですが、今、例えば新宿区の淀橋エリアだと、この10年間に結構幾つもの地区計画が起こって、もともとの住宅がなくなって、地区計画で高層ビルが建っているというのが多いんですよね。そういったときに、昔のまちの記憶が分かっている我々にとっての考え方と、今の巨大なビルを見た学生の

考え方というのは、どこかで議論をしたいなというか、何かフィールドワークをやりました、で終わりではなくて、そこそ我々なり昔を知っている人なりの議論が要るのかなという気がしました。それは研究室でやれと言うんだったらそれでもいいんですけども。もう一つは、地区レベルの景観の骨格といったものというのは、個別のフィールドワークからは必ずしも全体像が見えてこないの、それを先ほど**伊藤先生**もおっしゃったんですけども、単にデータ提供で学生がフィールドワークをやってまとめるだけではなくて、そこにどんな意図があるのか、例えば落合地区は地形が非常に複雑だから、単に高度規制をやっても、地形の尾根の高いところに建つとすごく影響力があるといった話も含めて、11ページの右、左、地区レベルの、そのレベルは少し何かどこかでチームをまとめて話す時間、フィールドワークをやった人たちと僕らでもいいんですけども、話す時間がちょっとずつ出てくるといいかなと思いました。感想です。

○中島委員長 ありがとうございます。進め方の中で、今の話をぜひちゃんと入れていきたいと思います。あと、学生たちも当然、時間軸についてはちょっと意識して、過去の話と、もちろん未来と両方見ていただくということになると思います。

最初の文献調査というところは、実は今の現行のガイドラインとガイドブックがあるんですけども、その読み込みというのがやっぱりまず何よりも大事で、そこでおおよそ、まずはつかんでいただいてということになるかと思います。

さて、ワーキンググループ、大分具体化してきましたので、しかも日程も近付いてきていますので、この方向でいくということによろしいでしょうか。

ありがとうございます。

議題3. その他

○中島委員長 では、これで議題としては、今日、報告事項で皆さんで確認していただくことは以上ですが、あともう1個、3番、その他というのは何かございますでしょうか。

○事務局（景観・まちづくり課） 新宿区です。

スケジュールについては、令和4年度に各地区の説明会を進めさせていただいて、予定どおり令和5年度に新しい計画のほうを完全施行させていただき予定となっております。引き続きよろしくお願いいたします。

その他としては以上でございます。

○中島委員長 坂井先生、お願いいたします。

○**坂井委員** 先ほどの資料2のスケジュールで、この後、学生募集のためのフライヤーを作ってもらって、それが先ほどの各先生に送られて、先生のほうで学生に声をかけてというそのあたりの流れを、お答えお願いいたします。

○**中島委員長** いかがでしょうか。

先ほどの資料のスケジュールのほうで、たしか説明会というのが5月下旬からありますよね。

○**坂井委員** ごめんなさい。そこのことも質問だったんですけども、言いそびれてすみません。こちらで5月中旬までに個々の、例えば**坂井**、私が何をどうすればいいとか、ちょっとそのあたり、言っていただけると助かります。

○**中島委員長** いかがでしょう。事務局のほうでできますか。

○**事務局（景観・まちづくり課）** こちらで予定しているのは、全体の説明会のほうは5月中旬から6月と記載させていただいています。先ほどご意見を頂きましたチラシのほう、早急にこちらのほうで作成させていただいて、各委員の皆様には配付をさせていただきたいと思えます。それぞれの大学ですとか研究室でいろんなご事情があると思うんですけども、学生さんのほうには、こういったことを企画しているので参加していただけないでしょうかというアナウンスのほうはお願いできればと思います。次回の小委員会の開催は、5月の中旬又は下旬を目指しているんですけども、それとは別に、このワーキンググループの進め方については、スケジュールに基本的には沿って、チラシだとか事前の調整、またそういった項目については、メールですとか、そういったところで随時先生方に情報を流す、あるいはお願いする項目等については調整させていただきたいと思っていますところでは。

○**坂井委員** ありがとうございます。この全体説明会のところが「参加チームに対する」というふうに書いてあって、その前のページにチームをどういうふうに組むかみたいなところで2案あったと思うんですけども、何かこのあたりも、大きな学校であればチームでやってくるんでしょうけれども、私のところは多分個人で行くということがいいのか、できないのかとか、何かちょっと細かいことも気になってしまったので質問させていただいたんですけども、このあたりは学生が集まってから考えるという感じでしょうか。

○**事務局（景観・まちづくり課）** そうですね。この全体の説明会までには下準備というか、各大学の先生方とは調整させていただいて、大学によっては、その大学だけのチーム、あるいは今おっしゃっていただいた**坂井先生**の研究室では、ほかの研究室と合同で組んでいただくとか、この説明会の前までに、ある程度下準備のほうはさせていただくつもりではおります。

○**坂井委員** そうすると、事務局のほうでは、この前のページの3ページの右側の体制を考え

ていらっしゃるという理解でよろしいでしょうか。

○事務局（景観・まちづくり課） そうですね。全てが同じ研究室チームというものではなくても、研究室連合チームというものでももちろんオーケーなんですけれども、ある程度、ちょっと我々のほうでも具体化し切れていない部分がございますので、今後、その部分は調整させていただければと思っているところです。

○中島委員長 すみません、八千代エンジニアリングさんのほうから説明があります。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） すみません。チーム編成については、同じ研究室で参加しやすいのであれば、それで参加いただくのでもよろしいのかなと思っています。それから、人数の関係とかで個人的に参加するということは、我々のほうでちょっと組み方を考えさせていただくということで、左側のほうも挙げさせていただいていますけれども、ここも各研究室とご相談になるかなと思っています。

○中島委員長 それでは、篠沢先生。

○篠沢委員 細かいところで2点、5ページの参加大学の募集の中で、前回策定時のワーキンググループ参加者として窪田亜矢先生は入れておかなくていいですか。工学院大学にいらした頃に参加されていたんですけれども。

○中島委員長 その件については、今、窪田先生1年間お休みを頂いているということだと思います。

○篠沢委員 了解です。

もう一つは、このワーキンググループに参加する学生の能力はどれぐらい必要かということが疑問なんです。昔はこれ、製本というか、作図まで含めて学生がかなり頑張っていたところなので、非常に頑張ってやれる子じゃなきゃ駄目かなとも思ったんですけれども、例えば、今、今日から始まるまちづくりの演習を3回生がやっている。3回生の中でも熱心にこれに取り組みたいという子は参加可能なのか。それとも、やっぱりある程度スキルを持った、卒業制作をやっている、あるいは院生ぐらいのほうがいいのかという感触をお聞かせいただいと話をしやすいんですけれども、いかがでしょうか。

○中島委員長 それは誰の感触になりますか。我々の考えることのような気もちょっとするんですけれども。

○篠沢委員 いえ、多分、取りまとめのコンサルタントのほうだと、本当は図を作ってほしかったのに出てこないとかいう話になってしまうと困るので。

○中島委員長 なるほど。では、先にコンサルタントの八千代エンジニアリングさん、お願

いたします。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） 希望されて入っていただける方は、ぜひ歓迎したいなと思っているところが一つ率直な気持ちです。その上で、チームにリーダーを置いていただきたいと思っていまして、その方は、できれば院生の研究室でやられている方をお願いしたいと思います。

○篠沢委員 分かりました。ありがとうございます。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） チームの話のところ、そういう学部3年生だけのチームになりそうであれば、混合チームも視野に入れて調整をしたいなと思っています。

○篠沢委員 分かりました。じゃ、特に3年生を拒否はしない。熱心ならばいいという感じですね。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） 皆さん、先生から御意見をお願いできればと思います。

○中島委員長 私も、声がけとしては3年生とか4年生がいいのかなと、もちろん関心があれば院生もあると思っていました。むしろ、この取組の中でスキルも学んでいただければなんでもの感じでしたけれども、今の学生たちはスキルの的にはすぐに身に付くので問題なくて、むしろ景観の考え方とかの議論ができるかどうかですね。そこはちょっと我々のほうも意識しながら議論をしていくということと、あと、先ほどの**坂井先生**の質問の話なんですけれども、説明会の前に我々がやらないといけないのは、誰が自分の大学から参加するかとかというのは我々のほうで把握して、何か伝えておかなきゃいけないということですね。プロセスとしてはその説明会を聞いてから、参加しようとか、そういう話ではなくて、もはや先に我々がこれをいろいろ説明していくということですね。説明会の前に何か期日を決めて、我々の大学からはこういう人が参加しますということをお伝えして取りまとめてもらうと、そういうことなんですか。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） 説明会のときには、チームというか参加者が決定した状態での説明会をイメージしておりました。そのため、ちょっと期間が短くて恐縮ですけれども、我々のほうも募集のための資料を出させていただいて、一定の人数のめどを付けていただくことを、5月中頃ですかね、このあたりまでお願いしたいなと思っております。

○中島委員長 そうしたら、希望者はそれぞれの大学ごとに、まず我々のほうで受け付けるということですね。研究室の学生はいいんですけれども、学部生とかだともうちょっと距離があるのでチラシの中に希望者はここまでという、少しそういうやり方をしないと集まらないん

ですが。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社）そこは先生方をお願いしてもよろしいでしょうか。すみません。

○中島委員長 このプロセスだと、そうならざるを得ないですね。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社）ありがとうございます。

○坂井委員 それと、今ここにいる4人は聞いているので分かりましたけれども、それ以外の先生がリストアップされていて、その中の先生にも、例えば5月15日とかまでに何かチーム編成を込めてみたいなということをフライヤーに書くか、何かそこで補足説明とかしておかないと分からないかもしれないですね。

○中島委員長 確かに、今の坂井先生のご指摘のとおり、この4人は何か説明ができるんですけども、そのほかの先生で、別に何をやるかということ自体、我々が説明しないとまず分からないような気がするので、ちょっと同じプロセスでは難しいかもしれないですね。担当を決めて、その先生方はあくまで仲介であって、我々は分担して何か取りまとめるんですかね。あるいは私のほうでやるのか。

それとも、この小委員会の4人のほうでまずは募集をかけて、その上でプラスアルファで、さっき挙がっているような先生方に足りない場合にお話をしたほうがいいのか。そのほうがプロセスとしてはやりやすいかもしれないですが、そう言われてみるとどっちがいいですかね。

○坂井委員 坂井です。

ちょっと部分的な話になってしまいますけれども、例えば都市大チームということで私と中島伸さんのほうがやって、工学院チームということで何かやって、東大関連ということで何か野原先生、分からないですけども。

○中島委員長 前回やった人たちということですね。

○坂井委員 そういうふうにするか、何かちょっと割り振りをざくっとしていただいて、もちろん中島先生1人じゃなくて、この4人と、もしかしたら4人ではなく八千代エンジニアリングのほうから直接言っていただくところもあるという感じで役割分担していただいたほうが、もう1か月ぐらいの仕事なので早いと思います。

○中島委員長 そうですね。それだけ決めてしまってもよろしいでしょうか。そういう意味で、次の5ページで今共有されているものでいくと、佐藤先生は、後藤研究室の助手をやられていたときに実際にやっていた方ですが、どうでしょうか。私ですかね。遠藤新先生は篠沢先生でしょうか。

○篠沢委員 遠藤新先生はうちから連絡できます。

○中島委員長 佐藤先生から永瀬先生までは私のほうで取りあえず声をかけて、私のほうで集約をして、各大学の参加者がいれば、新宿区さんと八千代エンジニアリングさんにお伝えするということにします。

佐々木葉先生は、どうでしょうか。たしか八千代エンジニアリングさんの担当者が佐々木葉先生の研究室の出身者だということですがいかがでしょうか。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） 伺っておきます。

○中島委員長 それでは、八千代エンジニアリングでやっていただくことでお願いします。これでもう大丈夫ですかね。

○篠沢委員 野澤先生も私のほうで連絡します。

○中島委員長 景観まちづくり審議会の後藤会長から、本当は佐藤先生に声をかけていただければ一番、前向きな気持ちになりそうなんです、後藤先生と佐藤先生へのお声かけは新宿区さんのほうでお願いできますか。

○事務局（景観・まちづくり課） 後藤会長には近々お会いする機会がございますので、今頂いたお話、先生に区からお願いしてみようと思います。

○中島委員長 分かりました。後藤先生と佐藤先生は区で、あと、先ほどの訂正です。中島伸先生は東京都市大学のほうで声をかけていただいたほうがいいですね。だから、中島伸先生は坂井先生でお願いいたします。

○坂井委員 はい。

○中島委員長 では、それで分担ははっきりしましたので、声はかけます。

○篠沢委員 それから、もう1件いいですか。今日頂いた、この資料2は、先生にお話しするときに配っても問題ないですか。

○事務局（景観・まちづくり課） 配っていただいて、活用していただいて構いません。

○篠沢委員 はい、了解です。

○中島委員長 あと、すみません。フライヤーは今日、頼んだのですが、いつできるでしょうか。それによって声かけのタイミングを決めたいと思うんですがいかがでしょうか。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） すみません。週明けまでのお時間頂けると有難くて、今日が13日なので、19日までいかがでしょうか。

○中島委員長 ありがとうございます。それでは、基本的には19日に声をかけるようにします。

○**坂井委員** すみません、声をかけて、その集約はどんなふうに、いつ、誰に、それともそのままで結構ですか。どうでしょうか。

○**中島委員長** さっきの話だと、我々4人がまず集約するんだと思うんですが、それをいつまでに集約してお伝えするかということを決めておいたほうが良いということですね。そもそも全体説明会の日程もまだちゃんと決まっていなくてはいないところではありますが、その少し前ということですね。

全体説明会も本当は我々が出られたほうが良いですね。日程調整が必要だと思いますので、その日程調整と併せて、我々が集約した情報をいつまでに新宿区さんと八千代エンジニアリングさんに伝えるかということを決めていただければと思います。それでよろしいですか。

○**坂井委員** そうですね。次回の小委員会とか、何かそのあたりのミクロのスケジュールリングをしていただくと助かります。

○**中島委員長** では、その3つですね。次回の小委員会と、我々の取りまとめの締切りと全体説明会、その3つが連動すると思いますので、それをまとめて日程調整をお願いいたします。

○**事務局（景観・まちづくり課）** チラシですとか、そういったほかの点も含めてスケジュールリングも再度させていただいて、委員の皆様にご近々配付したいと思いますので、よろしくお願い致します。

○**中島委員長** ありがとうございます。**坂井先生**のご意見で具体的に進められるようになったと思います。

ほかは特に大丈夫でしょうか。

では、今日の小委員会の議題としては、これで全部終わったかと思っておりますので、お返しします。

○**事務局（景観・まちづくり課）** **中島先生**、各先生、今日もお忙しいところ、いろんなご意見等を頂いてありがとうございました。

スケジュールリングですとか、まだ煮詰まっていなくていいところがあり申し訳ございません。早急にコンサルとも詰めて、なるべく早く皆様のほうにお知らせしたいと思っております。

それでは、今日はここで本年度1回目の小委員会のほうは終わらせていただきます。

次回については、先ほどご案内した、5月の大体中下旬ぐらいでスケジュールを入れさせていただきたいと思っておりますので、またよろしくお願いしたいと思います。

それでは、私どものほうも以上でございます。

○**中島委員長** どうもありがとうございました。これでよろしいですかね。

○事務局（景観・まちづくり課） それでは、先生方、どうもありがとうございました。

午前10時47分閉会